



旭川基署発 1130 第 1 号
平成 29 年 11 月 30 日

各位

旭川労働基準監督署長



「北海道冬季災害ゼロてんとう防止運動」の取組について（協力依頼）

労働基準行政の推進につきましては、平素から格別の御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

北海道はこれから本格的な冬を迎え、特に雪や凍結による転倒災害の多発が懸念されるところです。

このため、北海道労働局では、冬季労働災害のうち「転倒」に着目し、重点的に転倒災害防止対策に取り組むことによって、労働災害を大幅に減少させることを目標に、別紙リーフレット記載の実施要領により、「北海道冬季災害ゼロてんとう防止運動」を展開することと致しました。

つきましては、本運動の趣旨を御理解いただき、リーフレットによる傘下会員事業場に対する本運動の取組についての周知啓発に、御協力いただきますようお願い申し上げます。

※リーフレットは北海道労働局のホームページからダウンロード出来ます。ダウンロードの際は「北海道労働局」「てんとう防止運動」と検索してください。

担当

旭川市宮前 1 条 3 丁目 3 番 15 号旭川合同庁舎 西館 6 階

旭川労働基準監督署 安全衛生課

電話 0166-35-5901

FAX 0166-35-6599

北海道冬季災害ゼロ てんとう防止運動



STOP! 転倒災害

運動期間：平成29年12月1日～平成30年3月31日

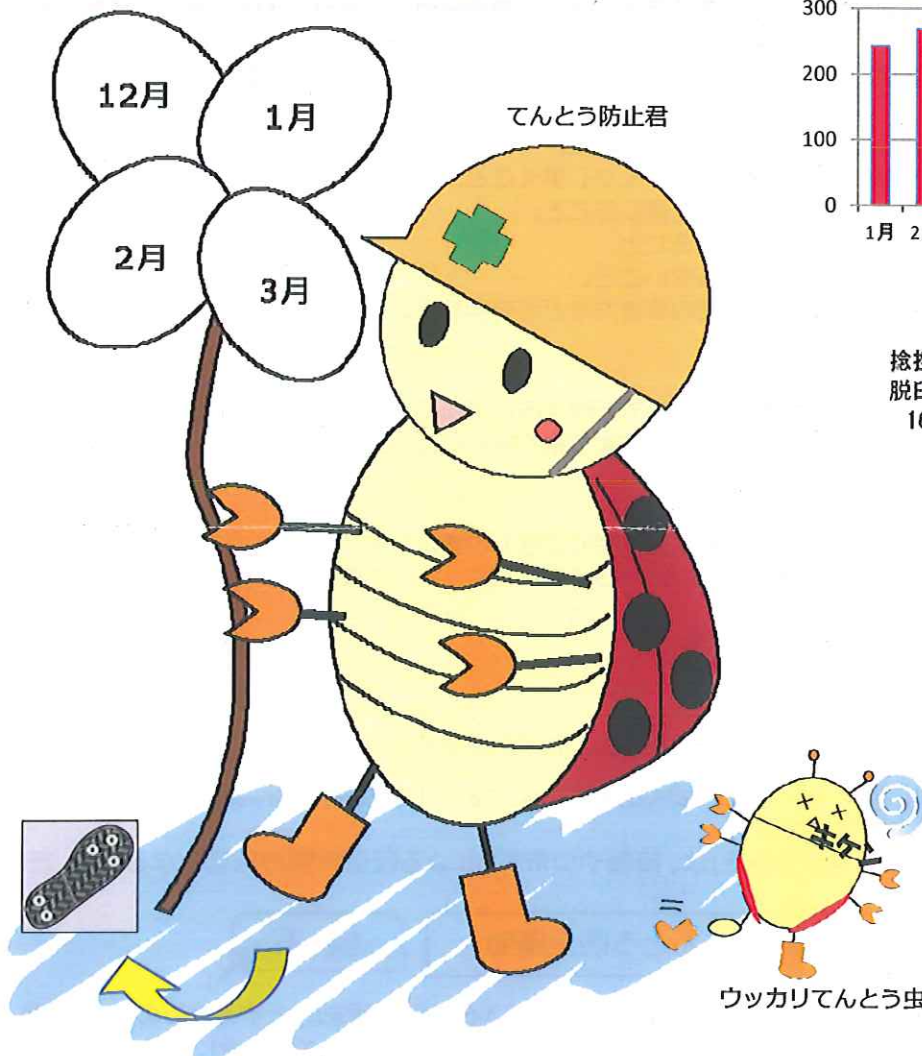
転倒災害ゼロを目指して取り組みましょう。

【運動の5Action】

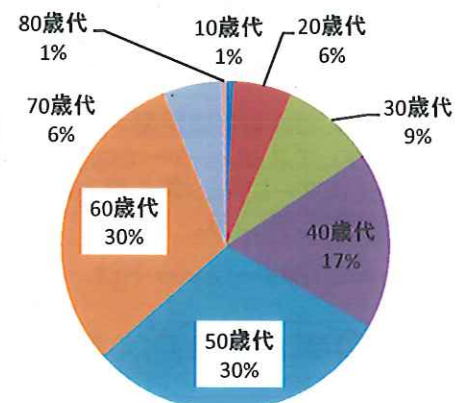
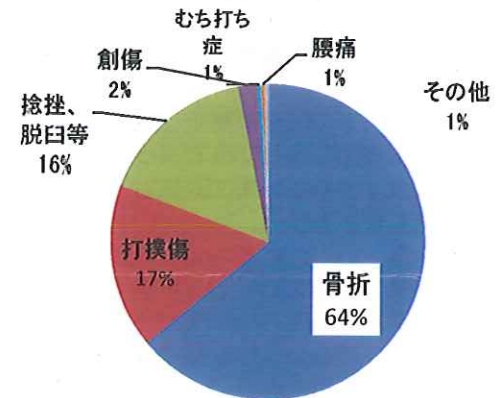
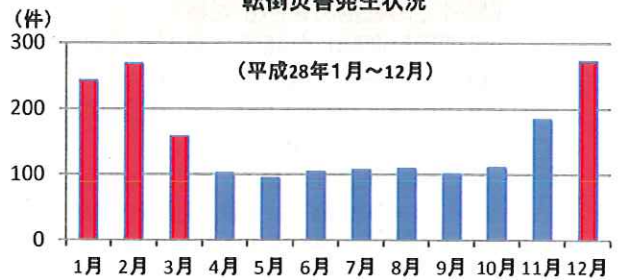
- ☞ 経営トップの転倒防止に取り組む意志表明
- ☞ 安全担当責任者の職場巡視の実施
- ☞ 4S（5S）活動の実施、危険予知活動や冬季危険ヒヤリマップ作成の推進
- ☞ 危ない！と感じた場所の情報集約（ヒヤリハット報告など）
- ☞ 転倒の危険がある場所の改善

咲かせよう！
「安全」のクローバー

災害ゼロを達成したら、達成月の葉を塗りつぶし、すべての葉が緑色になるように取り組みましょう！



転倒災害発生状況



資料：労働者死傷病報告(休業4日以上)による



厚生労働省北海道労働局

各労働基準監督署(支署)



『北海道冬季災害ゼロてんとう防止運動』実施要領

厚生労働省北海道労働局

北海道内における平成28年の休業4日以上労働災害による死傷者数は6,614人で、そのうち転倒による災害は1,855人と28.0%を占めています。

また、転倒災害のうち5割が12月、1月、2月、3月に発生しており、平成28年11月には凍結路面で転倒し頭部を強打したため死亡する災害も発生しております。

北海道はこれから本格的な冬を迎え、特に雪や凍結による転倒災害の多発が懸念される所です。

北海道労働局では、冬季災害防止対策のうち「転倒」に着目し、重点的に対策に取り組むことにより大幅に労働災害を減少させることを目標に、『北海道冬季災害ゼロてんとう防止運動』を展開しますので、一人ひとりの積極的な取組により、冬季の転倒災害を撲滅しましょう。

運動期間 : 平成29年12月1日から平成30年3月31日

実施事項 : 「運動の5 Action」

- ☞ 経営トップの転倒防止に取り組む意志表明
- ☞ 安全担当責任者の職場巡視の実施
- ☞ 4S(5S)活動の実施、危険予知活動や冬季危険ヒヤリマップ作成の推進
- ☞ 危ない!と感じた場所の情報集約(ヒヤリハット報告など)
- ☞ 転倒の危険がある場所の改善

主唱者 : 北海道労働局 各労働基準監督署(支署)

実施者 : 事業者及び労働者



【具体的な転倒災害防止対策(例)】

《屋外での転倒災害防止対策》

冬期間は凍結した路面で転倒し怪我をする災害が多く目立ちます。事業場内の駐車場や通路、また、通勤経路では次の対策を実施しましょう。

- ☞ 事業場敷地内、駐車場、出入口、通勤経路等の滑り易い場所を確認し、「危険マップ」を作成する等により労働者に周知すること。
- ☞ 靴は保温性が高く、かつ、滑りにくいものを使用すること。
- ☞ 小さな歩幅で、靴の裏全体をつけ、「急がず、ゆっくり」歩くこと。
- ☞ 通路等は凍結防止対策(融雪剤、砂の散布等)を講じること。
- ☞ 屋外や屋外に通じる階段にはすべり止めを設けること。
- ☞ 服やズボンのポケットに手を入れたまま歩行しないこと。
- ☞ 初めて北海道の冬を経験する者に対して、雪道の歩き方などの安全教育を行うこと。

《屋内での転倒災害防止対策》

水や油でぬれた床で滑って転倒したり、段差につまずいて転倒する災害が多く目立ちます。水のたまる場所は水はけのよい床に改修し、油などの汚れは定期的な清掃により取り除くなどの対策が必要です。次の対策を実施しましょう。

- ☞ 出入口などの滑りやすい場所は滑り止めの措置をとる。
- ☞ 段差をできるだけなくするか、段差のある場所には「足元注意」の表示をする。
- ☞ 床の油汚れや床面が水などで濡れているのを見つけたらすぐに拭く、濡れたままにしておかない。
- ☞ 通路には物を置かない、物をはみ出させない。
- ☞ 専用の滑りにくい履物を履く、靴の踵を踏まない。
- ☞ 走らない、ポケットに手を入れたまま歩かない。
- ☞ 決められた通路を通る。
- ☞ 出入口や曲がり角では歩行速度をゆるめ、対向する人の有無を確認する。

駅構内、ビルなどに設置されているエスカレーターでは、歩くと振動による急停止や接触などによる転倒災害につながります。エスカレーターでは歩かないようにしましょう。

また、スマートフォン等を操作しながら歩く「ながら歩き」は、接触やつまずきによる転倒災害の原因になるので、行わないようにしましょう。

※このリーフレットは、

北海道労働局 てんとう防止運動

検索

STOP! 転倒災害
プロジェクト

厚生労働省では、企業・事業場で実施されている転倒災害を防止するための安全活動の創意工夫事例(見える化事例)を募集し、公開していますので、参考にしてください。

職場のあんぜんサイト

検索